参考資料１

チーム 1

まちに人を呼び込むためのアイデア、まちが連鎖的に魅力的になっていくアイデアを考える

若者や家族連れをまちに呼び込むためのアイデアと、まちについて話し合いながら、まちづくりを継続的に進めていくための仕組みづくりについて議論しました。

※4~6項は、第4回~第6回の議論で出された主な意見を整理・編集して掲載しています。



熊本城周辺を市民と観光客が日常的に利用・滞在できる場にする（お城をセントラルパークとして見立てる）

熊本城とその周辺を、観光目的だけでなく、市民の日常利用や滞在にもつながるエリアにするため、周辺環境の整備やまちなかからのアクセス向上を図る。そして、熊本城とその周辺一帯を「セントラルパーク」として見立て、一人ひとりが自分たちの場所として使い、育てていく

熊本城周辺の環境整備による日常利用の促進

熊本城とその周辺に、日常利用や集客につながる施設・イベントを導入し、市民や観光客が訪れるきっかけをつくる

- ジョギングやサイクリングができる道の整備
- 今のまちにない集客力のある施設の導入
  例：水族館など
- 過去に実施されていたイベントの再活用
  例：サーカス、花火大会など

まちなかから熊本城への動線をつくる

現在、まちなかから熊本城へ向かう動線が限られているため、開かずの門を開くなど、まちなかと熊本城を行き来しやすくする

通りごとの特色と緑を活かしたまちづくり

通りごとに特色があり、それぞれに文化が蓄積されていることを踏まえ、通りごとの組織づくりや勉強会、ルールづくりを行い、実際のまちづくり活動につなげる。「白川公園」「熊本城」「白川」「坪井川」など、まちなかの貴重なみどりを活かしたまちづくりが大事。

通りごとの特色を活かした組織づくりとまちづくり活動

通りごとに勉強会を行い、将来像やルールを話しうだけでなく、実際の活動につなげていく
例えば…電車通りのトランジット化
銀座通りでの朝市開催
外部の人や来街者が通りを支える仕組みづくり

まちなかの貴重な緑を活かしたまちづくり

白川公園・白川河川敷をイベントで使えるようにする。
街中にオープンスペースをつくる

- キッチンカーが入れるように道を整備
- 街中に点在する公園で一斉にイベントを開催

通りごとに特色があり、それぞれに文化が蓄積されていることが、まちなかの魅力であることが共有されました。通りの魅力を今後も持続・継承していくために何が必要かについて議論が交わされました。
また、現在の来街者の構成をどのように捉え、若者や家族連れにより訪れてもらうためには何が必要かについても意見交換が行われました。



TOPICS 1

熊本城周辺を市民と観光客が日常的に利用・滞在できる場にする(≒セントラルパーク化)

熊本城は観光客にとって重要な目的地である一方、市民が日常的に足を運ぶ場所にはなっていないという課題が共有されました。
すでにある環境資源を活かしながら、熊本城周辺からまちなか全体を一つの公園に見立て、周辺の環境整備やイベントの開催によって市民と観光客がともに自由に利用・滞在できる場にしていく空間を目指すといったアイデアが出されました。

TOPICS 2

上乃裏通りのように、リノベーションされた建物や個性的な店舗が集まるなど、まちなかには通りごとに特色があり、それぞれに文化が蓄積されていることが共有されました。
通りの魅力を今後も持続・継承していくために、通りごとに組織をつくり、勉強会を行い、将来像やルールを話し合うとともに、実際の活動につなげていくなど、継続的にまちづくりを進めていくためのアイデアが出されました

未来のまちの姿

―実現したい暮らしの姿から、まちに必要な機能や空間を考えました

※掲載している写真は、第4回のビジョンゲームで参加者が選んだ写真の一部です。

① 熊本城や周辺のオープンスペースを多世代が多目的に日常利用するための空間づくりや仕組みづくり



・平日は近隣のワーカーがお弁当を持ってランチできる空間に
・休日は親子連れがイベントを楽しんでいる

point
- 若者、ファミリー層、近隣のワーカー
- 観光客







アイデア・意見

■ まちの拠点となる集客施設の整備
・熊本城、白川公園の整備
・まちにない施設の新設(例:水族館、アリーナ)
・「食」がテーマのエリア(観光客向け)
■ オープンスペースの確保・ネットワーク化の仕組み
・街中にオープンスペースを作る
・ビルを建設する時にオープンスペースを確保した所にボーナス
・行政がビルを買い取り、オープンスペースに
・通りごとに時間を決めて、ほこみち化。まちなかにそういった通りがあふれるように
・来街者のために1階部分をまちにひらかれたものにする。
にぎわい・裏が見えるようにする

■ 白川公園のイベント活用
・白川公園・白川河川敷をイベントで使えるようにする
・白川夜市も定着した
・イベント会社との関係が必要
・キッチンカーが入れるように道を整備
・街中に点在する公園で一斉にイベント
■ ビルの上層部の有効活用
・ビルの上層階のテナントが空いているため、空き家バンクのような仕組みをつくる
・まちなか民泊に使えるのでは



オープンスペースがじわっと広がる発想が、まちの魅力を高めている。



星野先生

② にぎわいや緑を感じながら快適に回遊できる魅力的な歩行者空間の創出

point
・歩道、店舗軒先、路地等の滞在空間の創出
・市民、観光客、多世代の利用



熊本城を歴史だけでなく生活の場として活かすことで、新たなまちの価値になる。

国吉先生







・店舗軒先に中心部のにぎわい+緑も感じられる空間
・路地ににぎわいから離れて一息つける空間がある
・会社員、主婦、シニア等が幅広く利用でき、観光客も楽しく歩ける

アイデア・意見

■ 通りごとの特性に応じたまちづくりをするための組織づくり
・参加希望者で推進（オフィスワーカー、主婦（子連れ）、来街者等、意欲がある人なら誰でもok）
■ 散歩ルートの提案
・来訪者、通行人のために、川沿いにベンチの設置（ハード）、散歩ルート提案（ソフト）

■ 電車通りのトランジット化
・時間を決めてトランジット化
■ 熊本城から商店街方面へ人の流れを誘導する回遊動線の形成
・熊本城の開かずの門を開く
■ 金券による回遊促進
・フリンジパーキングの整備
・駐車場税の導入

③ 一日を通してまちで過ごせる場づくり

point
・朝市
・屋外ステージ
・屋上レストラン
・観光客が楽しめるイベント









・市民も観光客も利用できるような朝市がまちなかで行われている
・屋外ステージ、屋上レストランなど夜のにぎわいがある

アイデア・意見

■ まちに人を呼び込むためのターゲットを意識した施設の整備
・子どもが喜ぶ施設を増やす
・観光客向けの場（例：高知ひろめ市場）
・市民向けのコンサートホール

■ まちなかで過ごしてもらうための仕組みづくり
・街の案内人（熊本城のボランティアガイドは無料でやってくれる）
・推奨観光ルートの制作

④ 家族連れから学生、高齢者まで多世代が気軽に滞在・交流・活動できる日常的なサードプレイスの形成

point
・ファミリー層向け
・学生向け
・ワーカー向け
・シニア向けのサードプレイス







・家族連れが日中に人の目を気にせず気軽に楽しめる、集まれる場所がある
・学生向けの自習室や大人向けの交流・学びのスペース等、放課後・仕事終わり・休日のサードプレイスがある
・まちなかに高齢者が集う憩いの場がある

アイデア・意見

■ 学生向けの交流・学びのサードプレイスの整備
・放課後・仕事終わり・休日利用
・学校や塾以外で勉強し自習をするため
・自習室があると集まるきっかけになる
・図書館があると多世代が集まる

■ 既存施設を活用した子ども向け施設の確保
・（例）美術館の常設展示の活用
■ 中心商店街の低層部にカフェやランチができる店舗の誘導
・［下通、上通、新市街］1階に大きなカフェ
・［下通周辺の路地］ランチができる飲食店



⑤ 多様な主体が協働し、課題発見から実証・実装、維持管理まで一体的に進める仕組みづくり

point
・多様な主体の参画（民間事業者、市民等）

勉強会から案内人の育成や拠点づくりへと展開し、具体的な行動につながっていくことに期待！



田中先生

・地元住民、商店街等の民間活力を活かした課題発見から実証・実装、維持管理まで一体的に進める仕組みづくり
・多様な主体がまちづくりについて話し合う場づくり







アイデア・意見

■ 通り毎の組織づくり・体制強化、勉強会の開催、ルールづくり
・勉強会をするだけでなく活動をする
・案内人づくり（ソフト）+まちの中に交番のような拠点を作る（ハード）。合わ せて面的な展開ができるでは
・里親のような外部支援の仕組み（好きな通りのサポート）
・ルートを設定→ベンチを設置。人が通るようになるとまちがきれいになる
・既存のオープンスペースをまちの人がに使えるようにする

宝もの・問題もの・理想もの

※1~3回の意見を整理したものです

	現状		理想の方向性・必要機能等
	生かすべき資源	問題・改善点	
コンテンツ	・通りごとに特性がある(上通・下通・新市街アーケード／並木坂／シャワー通り他) ・上通など、文化が蓄積された通りがある ・上乃裏通り付近はリノベした雰囲気のある個性的な店舗が多い(壱ノ倉庫、弐ノ式など) ・屋台村 ・白川公園の茶室 ・熊本城、城彩苑 ・熊本城周辺の歴史的遺産 ・くまモンの人気	・熊本の中心部に長時間滞在しない ・飲み屋のまちで夜だけ賑やか ・多世代向けや子ども向けの施設が少ない ・商店街周辺に分譲マンションが増えてきている ・上乃裏通り付近の良さを継承していく仕組みや制度がない ・音楽(演劇)ホールは市民が使いにくい(規模、価格、音響、予約) ・まちなかにTSMCの波及効果を受け止める場所がない	・まちに若い人を呼びこみたい ・まちなかを若者、子ども、家族連れの場にしたい ・学生が使える自習室がほしい ・室内の幼児の遊び場がほしい ・下通、上通、新市街の1階に大きなカフェがあるとよい ・下通周辺の路地にランチができる飲食店が増えるとよい ・上乃裏通りの良さを継承していくためにどのような仕組みでアプローチするのか ・TSMCの波及効果を活かす(産業拠点の創出、デジタルサービスの強化等)
緑・オープンスペース	・[花畑公園~辛島公園]は都心のオープンスペース ・[白川公園]はまちなかのグリーンスポット ・[白川][坪井川]沿いの緑 ・[蓮政寺公園]はまちを歩く人の休憩スペース ・総合設計制度、優良建築物等整備事業、街なか再生事業等により創出されたオープンスペース	・魅力的なオープンスペースのネットワークがない ・魅力的な広場が少ない ・アクセスしやすい緑が少ない ・[白川公園]あまり活用されていない	・魅力的なオープンスペースのネットワーク化 ・広場の効果的な活用 ・白川公園をもっと活かしたい(過去には植木市、早起き野球、サーカス等が行われていた) ・白川の両岸の緑(オープンスペース)を活かしたい
回遊・滞在	・[オークス通り]は歩きやすい ・並木坂から新市街までの軸線を横断する細街路 ・上通りから新市街 ・市電が通っている	・魅力的な歩行空間が少ない ・まちなかが色々な道路で分断されている ・[上乃裏通り]は車と歩行者が混在 ・[銀座通り]は景観の向上が必要 ・[坪井川]は夜は暗くて近寄りにくい ・[熊本城]は本丸入り口が一か所のみ ・電車通りの交通渋滞、水道町交差点周辺の休日の交通渋滞	・熊本城とまちの回遊を高めて観光客を集客する ・上通、上乃裏通り、白川公園の回遊性を高めたい。総合庁舎跡地も加えて何かできないか ・[電車通り]をトランジット化したい ・[上乃裏通り]の歩行者空間化 ・中央区役所の建設予定地も含めて明るくなると良い
景観・空間	・[オークス通り]の雰囲気とグランガーデン熊本のセットバック空間が良い	・[光琳寺通り]、[西銀座通り]、[プールスコート通り]などはもっと街並みの連続性があるといい	・通りをきれいにする仕組みづくりが必要



チーム 1

大切にしたいこと

テーマ　**まちに人を呼び込むためのアイデア、まちが魅力的になっていくアイデアを考える**

熊本城周辺を市民と観光客が日常的に利用し滞在できる空間へ（お城をセントラルパークとして見立てる）

提案1

熊本城へのアクセス向上と周辺の施設整備

・熊本城とまちなかのつながり強化
・滞在や利用のきっかけとなる施設整備(水族館など)
・熊本城とまちなかのイベントの連携

提案2

通りごとの組織づくり

・通りごとの特色、文化の蓄積を活かす
・通りごとの勉強会やまちづくり活動の実施
・外部の人や来街者も含めた多様な主体の参画を促す

提案3

緑とオープンスペースの活用

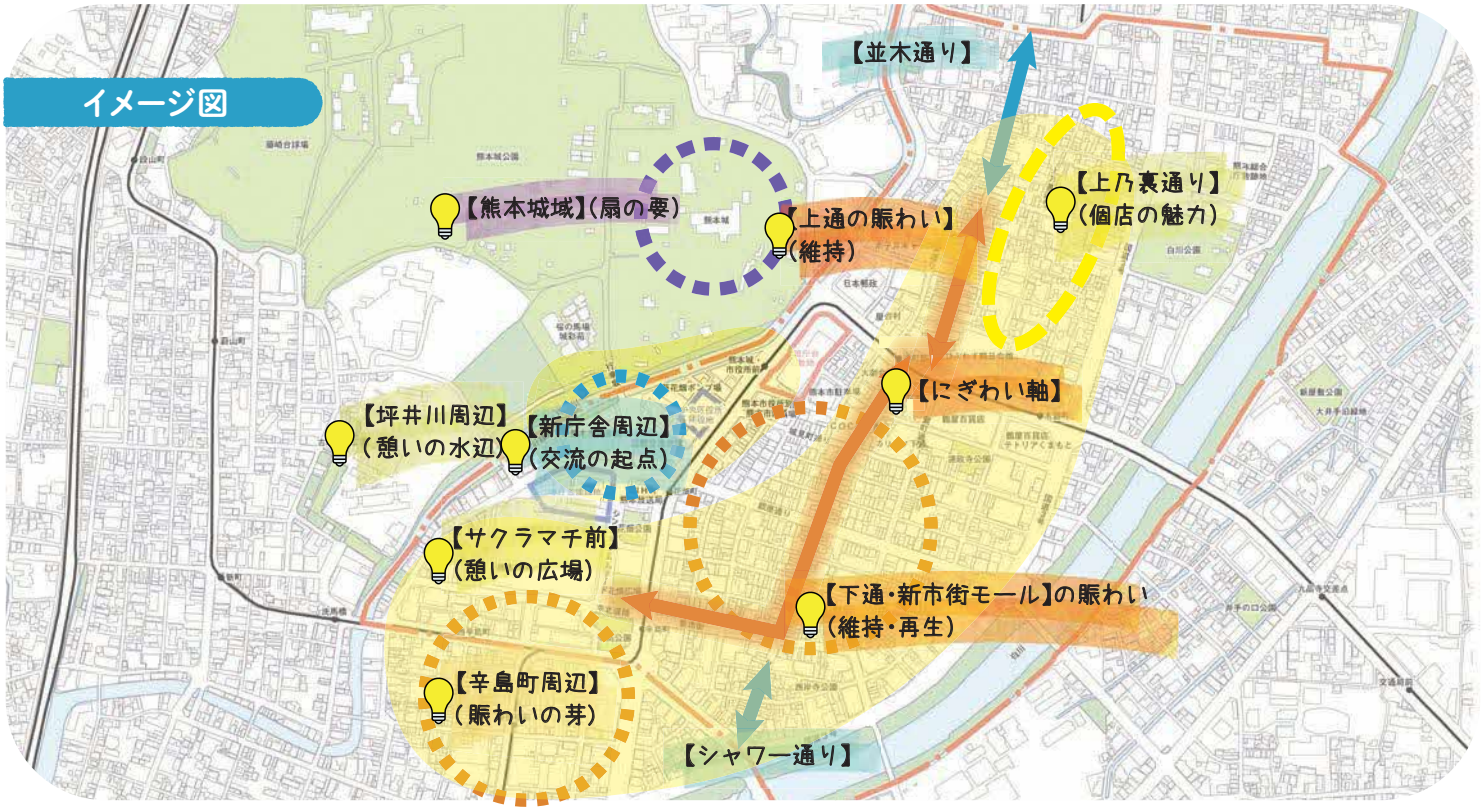
・白川公園、白川沿いをイベントで使えるようにする
・街中にオープンスペースをつくる

チーム 2

熊本を元気にするコンテンツを考える

新庁舎周辺の賑わいの創出に向けて、アーケードやそれぞれの通り・個店の現状と将来像について議論しました。
現状は通りごとに個性ある魅力が形成されている一方、面的な回遊にはつながっていません。
それぞれの通りやエリアが個性を発揮し、熊本城を要に各エリアが連鎖していく
将来像を描きました。

※8~10項は、第4回~第6回の議論で出された主な意見を整理・編集して掲載しています。



新たな交流の拠点・賑わい・憩いの場が生まれる

出会いがつながっていく、まちの拠点へ

居住者やワーカーが行き交い、そこに来訪者が偶然出会う魅力的な場所が、新庁舎周辺の公園・広場、坪井川の水辺に生まれるのでは

交流の起点(熊本城域、新庁舎周辺)

- 2040年には外国人、移住、企業進出が進展
- グローバル企業を含むワークプレイスと、子供たちが走り回れる広場が共存
- オープンカフェ、待ち合わせの場、交流の起点
- 歴史に紐づく体験型観光コンテンツとの連動

市民による魅力の磨き上げと多世代での循環

- 子供の頃から街に親しみ、歴史を知ることで、ライフステージが変わっても「街への想いがつながり、街を愛し続ける土壌」が育まれる
- 地元の人が自ら街のサービスや魅力を理解し、磨き上げることで「魅力の循環」が生まれる

通りや個店の魅力が連鎖し、面的な賑わいへと広がる(上乃裏通り・アーケード一帯)

ここだけの魅力

上乃裏通りは独自の環境を活かして今の賑わいがある。文化・歴史・店舗コンセプト等により、通り毎の多様な個性を形成する。通りごとの個性を伸ばし、それぞれが面的につながり賑わいと回遊が広がるまちへ

賑わいの連鎖

- 点在する個店の魅力をつなぐ、来街者にも分かりやすい回遊をつくる
- 住む人・働く人・そこに訪れる人が加わり、新たな街の賑わいが生まれる
- 個店や通りそれぞれが、魅力を伝える情報発信の力を高める

通りやエリアごとの個性を伸ばし、新たな魅力が生まれていく

- 上通・下通、上乃裏、辛島町など、特性に応じて新たな魅力が生み出されていく
- 熊本城を要として、それぞれのエリアが個性を発揮しながらつながっていく

上通・下通、上乃裏通りなどそれぞれの個店が抱える問題を深堀りし、それぞれの通りやエリアがつながり合うまちの将来像を議論し、住む人、働く人、訪れる人が出会う物語を描きました



TOPICS 1

出会いが生まれ魅力が継承されていく拠点づくり

日中はコワーキングスペースや公園、屋外で過ごせる場があり、夜は商店街のレストランやバーで自然に人々がすれ違い、言葉を交わす場面をイメージしました。子供の頃から街に親しむことで「街を愛し続ける土壌」を育み、地元の人間が街の魅力を磨き上げることで「魅力の循環」を生み出す、人を惹きつける拠点づくりを提案します。

TOPICS 2

通りの賑わいが連鎖する将来像

上乃裏通りは独特の個性でまちのにぎわいを牽引しています。下通アーケードは権利関係の複雑さなどで建物更新が進みにくい一方で、辛島町周辺には新たな賑わいの息吹が感じられます。通りの特性に応じて新たな魅力が生まれ、再生し、熊本城を要に賑わいが連鎖していく将来像を考えました。商業環境の変化を捉え、方向性の設定や業態の定着を支える仕組みも必要です。

未来のまちの姿

―住む人、働く人、訪れる人が出会い、つながっていく物語が生まれるまちを考えました

※掲載している写真は、第4回のビジョンゲームで参加者が選んだ写真の一部です。

①　多様な人が集い日常的な賑わいと多様な過ごし方を生む交流拠点（新庁舎周辺・熊本城域）

- グローバル企業の登録型コワーキングスペースやウェルネスエリアなどハイブリッドなワークプレイスが充実
- ワーカーやファミリー、子ども達が過ごす時と場がある
- 今あるオープンスペースを有効活用した屋外で飲食できるスペース
- サクラマチ前の広場は座って会話やランチができる憩いの広場に

point
- **グローバル企業のワークプレイス**
- **多様な属性の交流の起点**
- **キッチンカー出店など気軽に飲食できる場の常設**







居住者・ワーカー・来訪者の出会いが、まちへの愛着を育む仕掛けにつながる！



国吉先生



アイデア・意見

■ 外国人向けアプリ作成ツール
・2040年、外国人増加を見据え、交通手段や交流できる場所・ワークスペースにアクセスできるアプリ・ツールが必要（GoogleMAPに頼れない文化への対応も）

■ イベントスペースの創出
・屋根付きオープンスペース・電源があれば、出店コスト（テント設営・撤去費）が下がり、出店しやすくなる。
…屋内イベント会場は土日中心に不足。
…ポップアップ出店は増加傾向だが、花畑広場のテント常設化など景観面の課題も
・ターゲット層と店舗の相性（銀座のような「足りないものを置く」発想）が重要
…商店街は既にコミュニティが強固で、新規プレイヤーが入りにくい。

■ 待ち合わせスポット
・シンボルは「なぜそこがシンボルなのか」を考えてつくる（渋谷ハチ公前のような「余白のある場所」を例に）。
…スマホ普及でベンチの役割・必要性は変化。（現状はCOCOSA前、角マックなど。独りになりたい人もいる）
…座る場所の不足、長時間滞在できる場所（喫茶店等）の不足も課題。

② 個性ある資源を活かした賑わいと回遊を面的に拡大する仕掛け

- 上通・下通以外の場所での朝市、夜市、フリーマーケット
- 緑と花に彩られ、四季に触れて「歩きたくなる」歩道
- 長塀通りから新庁舎周辺への歩きやすい空間の段階的形成
- 人々が集まる待ち合わせスポットにシンボルアート

point
- 路地や裏通りでの朝市・フリーマーケットの開催
- 既存の緑や水を活かした公共空間の活用
- 店先やテラス席を気軽に利用できる飲食店





静的な歴史を「熊本を元気にする」視点で未来へつなぐため、場所とのつなぎ方が重要！





アイデア・意見

■ 観どころラリー
- 観光客・いちげん（一見）の人向けに「観どころラリー」
…自然（川・水・樹木）と歴史（加藤清正・宮本武蔵）テーマのコース、QRコード　付ラリーマップ、オススメ飲食店付
熊本城、水辺風景・樹木、夜景などのスポットも。
- ゆっくり歩く（ただ歩く）ことを楽しむ日常利用（ランチ・お茶・買物等）
…ゆっくり歩いて知る熊本のよさ、強みがある、ニッチな観どころ
…スマホで目的地に直行するだけになり、まちを「ゆっくり歩いて」気づく体験が減っている。

■ 動線上のベンチ
- ベンチ等で周囲に目を向けさせる工夫。
…地元の人が観光客に道を教える・案内する力が低下。

■ 歴史のコンテンツ化
- 宮本武蔵と花畑屋敷の逸話（2040年は武蔵来遊400年）「御地震屋」など地元の人も知らない「ここにしかない歴史」が多数。

■ 熊本舞台のアドベンチャーゲーム
- 伊勢志摩の歴史ゲームの成功例を熊本でもつくれないか。
…昭和的な美術館構想の発想にとどまらないこと
…外国人と地元の人との興味あるコンテンツの違いに留意。
ネット上で「もっと知りたい」「現地を見たい」となる
…文化庁の翻訳助成事業の活用

③ 個店の魅力に触れながら滞在できる通りの形成

- 個店が露店を出し、歩行者が足を止め地元の個店を知るきっかけになる
- まちの見どころとなる古民家を活用した店舗が点在
- 電車通りや上通・下通からつながる雨に濡れない歩行者空間

point
- 店先空間の活用
- 雨天時でも快適に回遊できる歩行者ネットワーク
- 魅力を高める古民家活用やリノベーション



アイデア・意見
- 制限速度を下げる（急ぐ車が通りにくくなる状況をつくる）
- デザインコードをつくる





④ 夜の居場所や交流スペースの創出

- 夜景スポットのような夜の居場所、夜景の見えるレストラン
- 大人数で飲食できる交流スペース、夜のイベント



point
- 夜景スポット
- 夜間利用できる交流スペース
- ふと立ち寄ったバーやラウンジでの交流





過ごし方の物語まで丁寧に描いたので、メジャーな魅力とマイナーな魅力がバランスよく存在し、「伝えたくなるまち」につながると感じた！



⑤ 子どもを中心に多世代が日常的に集い、まちの愛着を育む場所の創出

- 小さな頃からまちに親しみ、まちに来るのが当たり前の暮らし
- 多世代、多様な人達が安心・安全に、カフェや飲食を楽しめる空間
- 子ども達が自由に遊ぶ、緑が豊かな熊本の水辺を楽しめる場
- まちの暮らしや熊本城に誇りを感じる人が育まれる環境へ

point
- “まちへの愛着”、“まちへの憧れ”を再びつくる仕掛け
- 安心していられる子どもの遊び場



アイデア・意見

■ くつろげる広場の整備
- 現市役所の場所は熊本城からの入口、まちの人がくつろげる広場に。

■ 白川沿いの整備
- 熊本駅方面とまちなかのにぎわいをつなぐ役割に。

■ 坪井川等のライトアップ
- サクラマチのイベントと連動した「人のつながり」のサポート





宝もの・問題もの・理想もの

※1~3回の意見を整理したものです

	現状		理想の方向性・必要機能等
	生かすべき資源	問題・改善点	
コンテンツ	[並木坂] ・飲食店・美容室・スーパーがあり、マンションが増え、住むには良い環境が整っている [上通] ・夜になると人がすっと引く、下通との色合いの違い [上乃裏通り] ・家賃が比較的安く若い人や個人店がチャレンジしやすい環境がある ・画一的ではない建物(戸建て)が並び、多様な業態を受け入れられる ・自分の飲食店や物販店のコンセプトに合った物件を見つけやすい [下通] ・若い人が遅くまで滞在し、夜の賑わいがある ・アーケードに風俗店を入れないよう商店街が踏ん張ってきた [シャワー通り] ・歩道が広く落ち着いた雰囲気がある ・コンセプトのあるお店が多い(イギリスの服等) [坪井川沿い] ・桜は人を呼ぶコンテンツの一つ [辛島町周辺~新町・古町] ・昔の風情を残し活かした高単価なお店が増えてきた(並木坂や市役所の裏から移転) ・アーケードと異なる客層を捉えた飲食店が立地 ・アーケードより賃料が安い	[中心商店街] ・流行り廃りが激しく商売の方向性を見定めにくい [上乃裏通り] ・通り全体の街並みの統一感が必要。お店が点在しているため、外から来た人は魅力が分かりにくい ・個店のため一代で閉める店が多い [下通] ・地元資本ではない飲食店テナントが多い ・県外の人がビルを買うが組合に入らない、アーケードを維持できない [下通周辺] ・スナックが抜け始めた古いビルは権利が複雑 [シャワー通り] ・ファッション系の業態が長続きせずシャワー通りとして復活しきれていない [新町・古町] ・昔あった料亭がほぼなくなった	・熊本城を扇の要とし、複数の目的地となるエリアについて、異なる時間軸で考えていく(2040年頃を目指して) [上乃裏通り] ・現在は店舗が集積し、結果が出てきた途中段階。今後の可能性の芽をどう伸ばすか [下通] ・短期で課題が解決せず、周辺エリアの変化を睨みつつ長期視点で方向性を定めていく ・割り切って流行りの商業特化という選択肢もある [辛島町周辺~新町・古町] ・アーケードと異なる客層を捉えた、高単価で場所にこだわるお店が増えてほしい ・可能性の芽をどう伸ばすか [中心商店街] ・受け皿となる賃貸借等の調整機関やカウンターとなる専門家が必要 ・商店街においては、例えば、丸亀の再開発のような土地を信託しリーシングを行うような仕組みなども参考にしてはどうか ・テナントを埋めるだけでなく、まちなか居住を促進する取組も検討
緑・オープンスペース	・坪井川や白川に熊本の街の地形や水の流れを感じる ・坪井川沿いの人の流れがあり桜も植わって良い空間がある(市民が主体的に育て積み重ねてきた桜)	[坪井川沿い] ・川沿いの桜が活かされていない	[新庁舎~新中央区役所建設地周辺] ・水と緑を核にした公共空間の活用
回遊・滞在	[中心商店街] ・店先に椅子を出すなど、通りごとに歩行空間の工夫をしている ・市電とバス、公共交通で人が動いている	[地区全体] ・週末の交通渋滞 [上乃裏通り] ・歩行者と車が混在	[上乃裏通り] ・昔からの歩車のすみ分けを少しずつ進める
景観・空間		・新区役所ができるが行きたい場所になるかどうか	
建物更新、開発誘導		[中心商店街] ・後継者がおらず建物更新が進まない ・賃貸借の利害調整が進まない ・建築費・維持費が倍で今までのスキームが成立しない [上乃裏通り] ・木造で再建築不可の物件が多く、火災対応など安全面の問題がある	
発情信報		・「タウン情報クマモト」が無くなった ・お店によりSNSの発信力の差がある	



チーム 2

大切にしたいこと

テーマ　**熊本を元気にするコンテンツを考える**

地域の魅力を知り、伝え、継承し、それを担う人材を育てる仕組みづくり

新たな交流拠点づくり

・新庁舎周辺を多様な人々が交流する起点へ　　・坪井川周辺では水辺を活かした憩いの空間の形成

提案1

子どもの頃から参加する まちづくりと情報発信

・地域の歴史や活動を知る機会を増やす
・観光客向けだけでなく、住んでいる人にも地域の魅力を発信

提案2

まちを知り、歴史や魅力を 共有する仕組みづくり

・新しく住む人や外国人など、多様な人にも地域の魅力を共有する

提案3

当事者がプレイヤーとなる まちづくり

・居住者がやる気になる、まちづくりへの参加者が成功体験を得られる仕組み
・コンテンツを生み出すだけでなく、育て・継承する仕組み

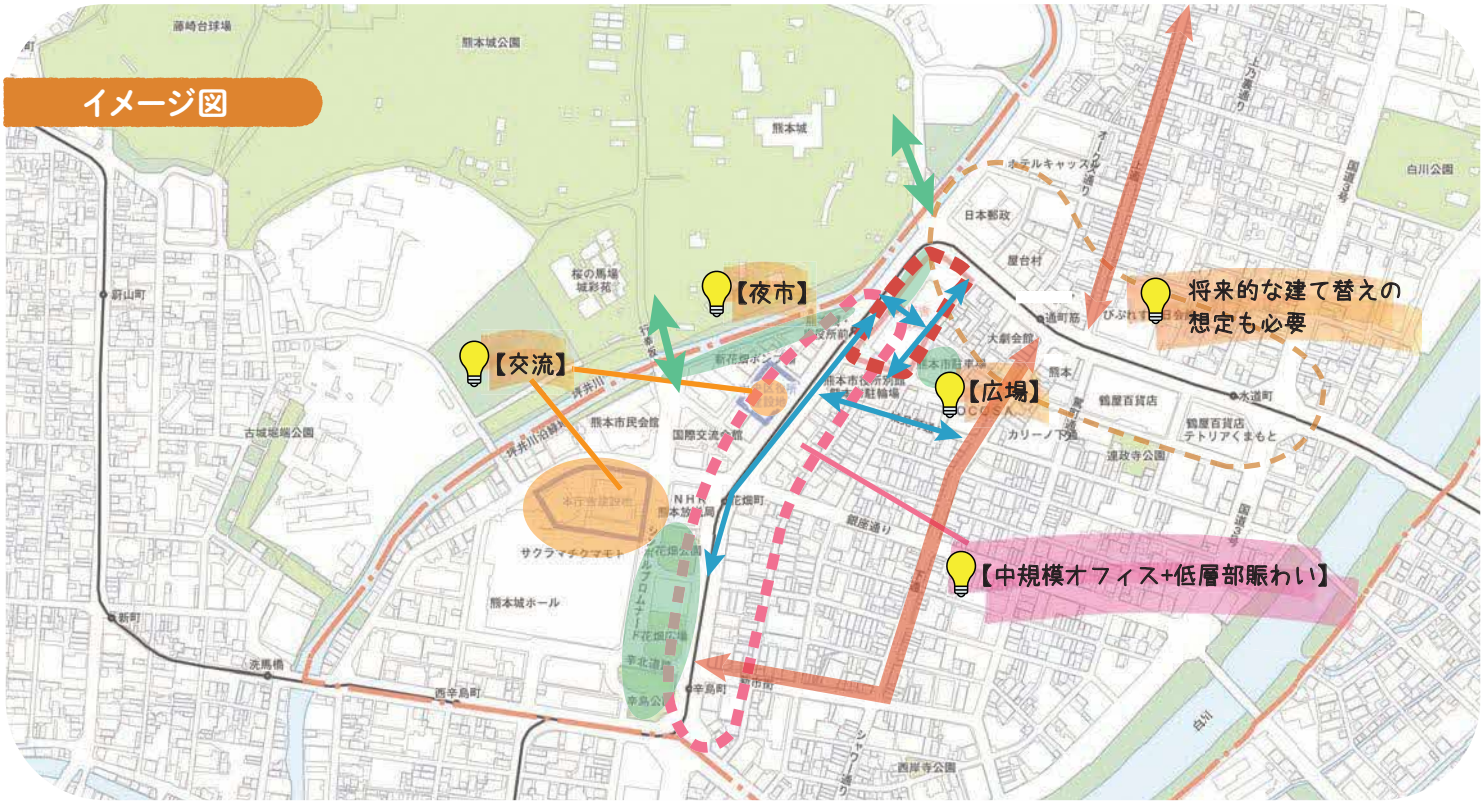
チーム 3

庁舎跡地の利活用と電車通りエリアの面的な開発を考える

現庁舎跡地を含めた電車通りエリアに投資を呼び込み、開発の連鎖や投資を波及させるアイデアについて議論しました。庁舎跡地の活用を契機として、大規模な投資から小規模な投資まで幅広く呼び込み、まち全体の価値向上につながるアイデアについて議論しました。

※12~14項は、第4回~第6回の議論で出された主な意見を整理・編集して掲載しています。

イメージ図



まちに新たな拠点を創出(現庁舎跡地)

熊本城に面する立地や公共交通の利便性、敷地規模等の条件を活かし、まちに人を呼び込む新たな拠点を創出することが大事

景観と立地を活かした用途や空間
- ・例えば…MIYASHITA PARKのような複合施設+公園のイメージ
- ・ルーフトップバー

若者を集める機能
- ・例えば…まちなかへの大学誘致(学部単位で設置等)

若者スポーツ交流の推進
- ・例えば…サブアリーナの建設
  ファミリー向けの施設
- ・例えば…キッザニア

まちにとって将来にわたり大事な場所になるため、シンボル的要素も重要
土地の所有は分譲等にせず借地で市が持っておける形がよい。

オフィス街を人々が行き交う通りへ

オフィス中心で低層部のにぎわいが乏しく、夜間・休日は人通りが少ないゾーンの低層部に新たな賑わい用途を導入したり、夜間の灯りを燈すことで、回遊の流れを創出することが大事

飲食、文化施設、インキュベーション機能など

まちづくりの時間軸を踏まえた取組展開

新庁舎の完成後、現庁舎跡地が利活用されるまでの間にも、エリア内の複数個所でイベント等を打ち、まちのイメージづくりを行う
- ・大学連携でまちづくりの社会実験を行う
  例えば…回遊を促す空間のつくり方の工夫の研究+実証



まちの骨格である電車通りを、にぎわいと投資を生む軸へ転換し、都市活動の軸として活かしていく方策について、現庁舎～桜町・花畑町側のゾーンを中心に議論が交わされました！



TOPICS 1 まちづくりのビジョン

現庁舎跡地の活用の方向性やまちなかのまちづくりの方向性を示すまちづくりのビジョンの重要性が議論されました。地権者やまちづくり団体と共有したり、ビジョンに沿った支援メニューを用意したり、地区計画などの具体のルールへ落とし込んだりと、今後の庁舎周辺まちづくりを進めていく中でのビジョンの役割が共有されました。

TOPICS 2 民間投資を呼び込むインセンティブ

電車通りを中心としたゾーンの開発/建て替え意欲を高めるためのインセンティブの必要性について、活発な議論がなされました。

共同建替の敷地集約を行うコーディネートのためのコンサル料、高さ制限・容積率の緩和、低層部の飲食店やインキュベーション施設、ルーフトップの賑わい施設等の導入に対する補助、面積や区画数、従前建物の築年数に応じた補助率の嵩上げ、防災性向上、歩行者向け空間の確保、緑化等に資する取組への補助など、新旧の支援メニューの組み合わせにより開発を誘導していくアイデアが出されました。

未来のまちの姿

―実現したい暮らしの姿から、まちに必要な機能や空間を考えました

※掲載している写真は、第4回のビジョンゲームで参加者が選んだ写真の一部です。

① 多様な属性の目的地になる居場所を増やす

・イベントがなくても人々が憩う広場がある
・まちなかに子どもたちの居場所がある
・ワーカーがランチをしに集まる広場、子どもたちが遊べる居場所、学生が集まり授業やゼミが行われるスペース　など

point
・目的地となる居場所
・活用の仕組み

投資が生まれる土壌を育む提案が重要！



星野先生

アイデア・意見

■ 学校、交流施設をつくる
・子ども、お年寄りが集まる場所をつくる









② 昼も夜も滞在できる多様な空間を増やす

・全天候型の空間で天候に左右されず滞在できる場所
・ビルのルーフトップなど、夜の灯りが燈る場所を増やす
・車の通行を規制した歩行者が歩きやすい路地にベンチや植栽で隠れ家的空間をつくる

point
・ナイトタイムのコンテンツ強化
・空間の多様性







アイデア・意見

■ 文化的施設の誘致
・図書館や美術館、市民センター（体育館）等
■ ルーフトップバー開業補助金
・夜間人口の増加を図る
・電車通りオフィスビル限定で補助

■ 歩道空間の利活用
■ 広場、歩道をイベントに利用する
・長堀通り、花畑広場（定期・単発）
■ 電車通りの歩行者天国化
・沿道低層部の活性化を図る
・定期的に実施

■ 現庁舎周辺道路の自動車通行規制
■ 複数棟でオフィスビルを建設
■ インキュベーション施設の整備
・中規模、複数

③ 電車通りに新たな目的地や滞在空間をつくる

point
・通りから活動が見える
・日常コンテンツと非日常イベント
・文化的資本の蓄積

電車通りを市民と観光客が交わる場として育てる提案をさらに深めたい


国吉先生

・地域住民、観光客など来街者が滞在できる空間を歩道空間や建て替えでセットバックしたスペースに設ける（イスやテーブルを設置するルール整備）
・来街者が滞在できる空間を増やすことで、路面店を誘致。電車通りの低層部にカフェやレストランができ、新庁舎・現庁舎跡地を訪れた人など、新たな利用者が訪れるきっかけになっている
・通りが賑わうことでアート、デザインなど様々な非日常イベントが生み出され、単発イベントで終わらない空間の使い方やまちが賑わう好循環がつくられる





アイデア・意見

■ 電車通り低層部への賑わい用途の導入
・開発等の大規模な投資を呼び込むために、投資意欲を高める取組を推進→まずは人通りを増やして賃料を上げる
・業務→商業機能転換のためのインセンティブとして、リノベーション（イニシャル投資）の行政支援（改装補助金）を導入対象機能：カフェ・レストラン、コンビニ等（ランチができる）
・新築/建替え時の賑わい用途の誘導
・新築/建替え時の補助金等の行政支援

■ 電車通りゾーンの将来ビジョンの提示
・キーとなる開発プロジェクトの方向性等
・現庁舎の動きを踏まえて周辺が動けるように、電車通りのまちづくりビジョンが必要
・エリアの利用やつくり方をイメージしたビジョンをつくるコンセプト
・電車通り沿いの地権者間コミュニケーション
→まちづくりイメージの共有（地権者、まちづくり団体等）

④ まちの魅力や一体感を高める景観演出等の仕組みづくり

point
・ビル低層部の緑化
・フラッグ広告のマネジメントの仕組みづくり

・ビルの低層部に木々や花々が植えられ、まちなかの緑が増えている
・街灯等にイベントのフラッグが飾られ、まちが華やかに彩られる

アイデア・意見

■ エリアマネジメントにより、まちを育てていく
・今からできる広場づくりとイベント
（人を呼び込む仕組み）




⑤ 現庁舎跡地に、新たな集客・滞在拠点を創出

point
・集客のキラーコンテンツ
・自然と人が集まる憩いの場
・人が集まる空間+ビジョン

キラーコンテンツと市民の居場所が融合し、観光客との自然な交流を生み出す。


田中先生

・地域住民、観光客がまちに集まる新たなキラーコンテンツをつくる（例：スポーツ、エンタメ、文化等）
・市民がおしゃべりや待ち合わせをし、イベント開催も可能な、自然と人が集まる憩いの場をつくる
・多くの人が足を止めてビジョンを見るなど、幅広い世代が集まれる空間をつくる

アイデア・意見





■ 集客力のあるメインコンテンツ+ミクストユース
（例：低層部は賑わい機能、上層階はオフィス、ホテルなど）
・高級ホテルの誘致
・大学を誘致（若者がまちに集まるように）
・ファミリー向け施設
・複合施設+都市公園
・サブアリーナ設置（ヴォルターズ用）
・プロスポーツ専用の練習場（屋内）
→現庁舎跡地の活用の方向性を早くリリースすることで、周辺地権者が建て替え方針を決めやすい
・庁舎跡地は広場の割合を増やした方が良い
・緑をあしらった森の都を再現
・高さ制限と補助金の緩和期間を設ける
・補助金の上乗せ（防災、長期利用、オフィスビル等は庁舎跡地ビルへ優先出店等）
・福岡のまねではない熊本ならではの新たなまちの再構築
・観光客が電車通りをこえる人と仕組みをつくる→ 市役所の広場・1Fの活用



宝もの・問題もの・理想もの

※1~3回の意見を整理したものです

	現状		理想の方向性・必要機能等
	生かすべき資源	問題・改善点	
コンテンツ	[電車通り] ・ビルの1階をリノベーションをしてカフェのテナントをいれているところがある。	・熊本城観光をした後にまちで食事をする人は、昼の時間帯が多く、夜は減る ・福岡から日帰りツアーのバスが出ているなど、半日の滞在で観光が済むと思われている節がある [電車通り] ・オフィス街(金融系が多い)のため、休みの日は静か、人通りが少ない ・低層部に人が集まるコンテンツが少ない ・自社ビルが多く、1階がエントランスになっているビルが多いため、テナントに貸し出せるビルが少ない	・付加価値がある目的地を増やす ・単にブランドがある施設を誘致するだけでなく、エリアとしてのまちづくりを進める ・熊本のまちに泊まって欲しい、滞在時間を延ばしたい ・夜まで留まってもらえる複合的なコンテンツがあるとよい [現庁舎跡地] ・熊本城に近い立地を活かして、人を呼び込めるよう、行きたくなる機能が必要 ・市民向けか観光客向けか→両立を目指すが、外から人を呼ぶことで、中の人にもお金を落としてもらうきっかけになる ・サクラマチと被らないようにする必要がある
回遊・滞在	[電車通り] ・沿道に緑がある、花壇で一人一花運動(パートナー花壇)を実施	[電車通り] ・オフィス街(金融系が多い)のため、休みの日は静か、人通りが少ない ・夜、建物の明かりがなくて暗い	
景観・空間	・熊本城を望める		[現庁舎跡地] ・行きたくなるシンボリックな空間ができるとよい
建物更新、開発誘導	・比較的敷地や建物規模が大きい	【開発が進まない要因】 ・地権者を辿れない、多すぎる ・立ち退き交渉に時間がかかる ・建設費が高騰し、収支が合わない ・容積緩和、高さ規制の緩和をしても、なかなか収支が合わない ・単体での建替えは一定時期を経て戻ってこないといけないなど、あまり現実的ではない	[電車通り] ・都市活動の軸として活性化するとよい ・民間投資を呼び込みたい ・都市部では1階に商業機能が入った方が、上の階の賃料も上げられ、オーナーとしてもメリットがあるのでは ・行政によるインセンティブがあるとよい ・地権者、事業者目線では、現庁舎跡地がどうなるか→エリアとしてどうしていくかといった方向性が示されると、土地活用について考えやすい ・現庁舎跡地の他に、キーになる開発2~3つの方向性が見えるとよい



チーム 3

大切にしたいこと

テーマ　庁舎跡地の利活用と電車通りエリアの面的な開発を考える

投資を呼び込み、開発の連鎖や波及効果を生み出すために

提案1

まちに新たな拠点を創出する

・現庁舎跡地の立地条件を生かしたシンボル的拠点、人を呼び込む新たな目的地
・ミヤシタパークやキッザニアのような象徴性のある施設導入を参考に

提案2

電車通りの魅力向上

・オフィス中心の街並みから、人が滞在する通りへ転換
・低層部への飲食・文化・交流機能の導入
・新庁舎整備から現庁舎跡地活用までには時間差を踏まえ、完成形を一度に目指すのではなく、イベントや社会実験、暫定利用等を通じてエリアの価値を段階的に高める

提案3

投資を支える仕組みや協議体づくり

・民間投資を促すため、敷地集約や開発支援などのインセンティブの充実
・官民の窓口となる協議体や推進組織、エリアマネジメントを担う仕組みの構築
・ビジョンや価値観の共有、地域関係者が自らエリアの価値向上を目指す機運の醸成

チーム 4

まちの回遊と、目的地となる魅力的な場所を増やすアイデアを考える

まちなかを楽しく、安心して回遊するためのネットワークや歩行者空間の在り方と、回遊の目的地になる場所を増やすアイデアについて議論しました。

※16~18項は、第4回~第6回の議論で出された主な意見を整理・編集して掲載しています。



憩い集まれる居場所の創出

回遊性の向上に向け、まちなかで一息つける場所、誰かと集まれる場所を創出することが大事

オープンスペース

・子ども、若者の居場所や多世代の交流の場所
・まちなか再生プロジェクトを活用した公開空地の活用
・ほこみち制度を活用したベンチ等の設置
・熊本城が眺められる屋上や水辺付近に友人と食事ができるお店がある





田中先生

駕町通り・銀座通り・新庁舎を結び、多様な回遊性を生み出す提案になっている

回遊を促す移動環境の形成（銀座通り・駕町通り・長塀通り）

下通りや新市街等に集中する人の流れをエリア全体に広げるため、多様な人が安心・快適に移動できる環境づくりが大事

居心地の良い空間の創出

・道路、店舗軒先、川沿い空間の活用
・植栽やオーニング等による快適な歩行空間の整備
・川沿いや長塀通りにおいて、アートや音楽を取り入れた新しい夜の賑わいを創出

多様な人が安心・快適に移動できる環境の形成

・人流の分断を解消する仕組みの検討
　＊サクラマチと新庁舎を地下通路でつなぐ
　＊銀座通りと電車通りの歩道橋付近の施設をデッキでつなぐ　など
・多様な人の移動を支える移動手段の導入
・充実（チャリチャリ、グリーンスローモビリティ、キックボードなど）

エリア全体の魅力を高めるため、
回遊の仕組みと目的地となる場所づくりを
一体で考える議論が交わされました！



TOPICS 1

回遊動線の拡充

下通りや新市街等に集まる人の流れを、エリア全体に広げるための工夫について活発な議論がなされました。幅員の広い道路等による人流の分断を解消するため、地下通路やデッキ、横断歩道の環境整備の必要性を共有しました。また、局所的な接続機能だけでなく、店舗の軒先、水辺、路地などを活かした心地よく過ごせる歩行者空間、誰もが移動しやすい移動手段についてもアイデアが出されました。

TOPICS 2

立ち寄りたくなる目的地

エリア全体の回遊性を高めるため、ゾーンの個性を活かした目的地の創出について議論されました。休憩できたり、誰かと集まれる場所であるとともに、子どもや若者にとって日常的な居場所、多世代の交流の場となる公園やオープンスペースについてアイデアが出されました。

未来のまちの姿

―実現したい暮らしの姿から、まちに必要な機能や空間を考えました

※掲載している写真は、第4回のビジョンゲームで参加者が選んだ写真の一部です。

① 多様な人々が安心・快適に移動できる仕組みをつくる

・幅員の広い道路に地下通路やデッキを設けて人の流れを生む
・横断歩道の横断時間を長くする等、誰もが歩きやすい環境（バリアフリー）にする
・植栽やオーニング設置により夏の歩行空間を快適にする

point
・デッキ
・地下通路
・誰もが歩きやすい空間
・歩きたくなる空間







② 滞在と回遊が共存する居心地の良い空間をつくる

・歩道、店舗軒先、川沿いが歩く場所でありながら一息つける場所にもなる
・子ども、高齢者、主婦層、まちで働く人等の日常の居場所になる
・川沿いや長堀通りでは、アートや音楽を取り入れた新しい夜の賑わいが生まれる

point
・歩道、店舗軒下、川沿いの活用
・市民の日常利用
・アート、音楽の導入







アイデア・意見

■ 人流の分断を解消する仕組み
・電車通りや、本庁舎予定地−市民会館の道路は道路が広いことで、人通りが分断されている
…銀座通りと電車通りの交差（歩道橋）にデッキを整備（視点場を考慮しながら）
…本庁舎予定地−市民会館は、サクラマチから地下通路を繋ぐ（ただし、歩いて楽しい空間／周囲が地下通路を認知してしっかり利用されている状況が必要）
…電車通りの交差点が誰でも利用しやすくできるよう、歩行者用信号機の時間を見直す
・企業と連携し、商業施設1階に通路（パサージュ）を設置
・人流の分断を解消する仕組み（デッキ・地下通路当）と、通りの歩行空間を一体で整備
…現状、銀座通りは昼間の人通りが少なく、少し寂しい印象であるため、昼営業の店舗を増やす。庇や植栽等を整備し、歩行空間の快適性を向上させる



③　多様な人の目的になる居場所を増やす

・子どもや若者が決まった予定が無くても集まれる公園がある
・多世代が同じ空間にいて、交流するきっかけがある
・駐車場や公開空地が日常の憩いの場に活用される
・まちP活用（空地の確保等）、ほこみち制度活用（ベンチの設置等）
・熊本城が眺める屋上や水辺付近に友人と食事ができるお店がある

point
・子ども、若者の居場所
・多世代交流
・友人と過ごせる
　プライベートな空間
・夜の居場所







アイデア・意見

■ オープンスペースの創出
・一息つける場所がない。特に子ども、子育て世帯がまちなかを歩き回ることを想定すると休めるところがあると良い。
…民間が所有する駐車場を行政が借り上げてオープンスペースとして利用
…ホテルの公開空地にベンチ等を設置（まちPの活用）
…銀座通りにベンチ等を設置（ほこみちの活用）

全体に一人ひとりが主役としてまちに関わることを考えている発想が素晴らしい！



国吉先生

④　市民も観光客も楽しめる移動手段を取り入れる

・観光客だけでなく市民も一緒に楽しめる「魅力発見ツアー」
・まちなかを回る周遊バス
・高齢者や子ども連れ、観光客の移動にグリーンスローモビリティ等を有効活用

point
・観光客と市民がともに楽しめる
・高齢者、子ども連れの移動しやすさ
・周遊バス
・グリーンスローモビリティ/
　マイクロモビリティの活用





アイデア・意見

■ まちなか交通の向上
・グリーンスローモビリティの活用
…子ども連れ、高齢者の移動を支える
…昔は周遊バスが運行していたが廃止された
・電動キックボードシェア



⑤　駐車場を適正に配置して歩行者回遊を支える

・時代や利用実態に合わせた駐車場の必要台数の検討
・既存駐車場の活用
・駐車場に荷捌き機能を整備
・フリンジパーキングの整備
・未利用地を駐車場等に活用

point
・荷捌き機能
・未利用地の活用
・バスの乗入場、駐車場
・フリンジパーキング





アイデア・意見

■ 観光バスの駐車スペースの確保
・観光バスの利用者の乗降場／駐車場のスペースが不足しているため、市所有の未利用地を活用して整備できないか。
■ 観光客へのまちなか店舗の周知
・レンタカー利用の観光客は、熊本城だけ観光して帰る人も多いため、駐車場から人を動かすソフト対策（周辺商店で使えるクーポンの配付等）が必要

平日は仕事、休日は疲れを癒やすという従来の発想を転換し、平日にも「すき ま時間」の余暇を生み、休日は目的を持って楽しむ過ごし方を想定していた。ゆったり過ごせる環境を土台に回遊を生み出す提案に可能性を感じる。



星野先生

宝もの・問題もの・理想もの

※1~3回の意見を整理したものです

	現状		理想の方向性・必要機能等
	生かすべき資源	問題・改善点	
コンテンツ	[並木坂] ・音楽が聞こえるのが良い ・意外と藤崎宮前駅からの人の通りもある [上乃裏通り] ・古民家を活かした店舗が多い [並木坂・上乃裏通り] ・藤崎宮前駅からの人の流れがある （特に通勤する人） [銀座通り・西銀座通り] ・夜のにぎわいがある	[銀座通り・西銀座通り] ・昼は人通りが少ない	[銀座通り・西銀座通り] ・昼も夜もにぎわいのある通りにしたい
緑・オープンスペース	・白川公園は貴重な緑資源 ・湧き水がある ・熊本城周辺の自然の豊かさ	・白川公園はあまり人がいない ・国道と白川で人の流れが分断されている	・白川公園でParkPFIができないか。 ・公園、オープンスペース、憩いの空間があると良い
回遊・滞在	[長堀通り] ・眺めが良くて歩いていると気持ちが良い [新市街] ・下通⇔桜町・花畑町をつないでいる	・銀座通りから新庁舎の交差点（歩道橋）を使う人が少ない ・観光客は熊本城のみで商店街まで行かない人が多い ・街中を歩き回るには距離があるので疲れる [長堀通り] ・人の回遊は少ない ・ベンチはあるが座っている人は少ない ・行幸橋から西側は通りの名前がない [新市街] ・新市街を横断する車が怖い （北側の駐車場を利用する車が多い）	[電車通り] ・交差点の信号は、ベビーカーを使う人も渡りきれるくらいの時間が確保できると良い 
（駐車場）	[下通東側(中央街等)] ・駐車場が多い	・移転に伴い現庁舎敷地、中央区役所、本庁舎敷地の駐車場が無くなるので不足分をどうするか ・駐車場は減っているが利用率はあまり変わっていない ・開発によって需要と供給が変化している	・時代に合わせて駐車場の必要台数を検討する必要がある
（駐輪場）	・駐輪場が減少したが、稼働率は溢れていないため、チャリチャリの利用が増えたのでは	・自転車の利用スタイルが変化している （罰則の強化、ヘルメットの着用など）	・自転車の利用が増えるのであれば、自転車専用道路があると良い ・通勤等にもチャリチャリが利用されると良い
（公共交通）	・公共交通は起点～終点が選べる自由度がある ・滞在時間が長いというデータがある	・公共交通は定時制が低い ・マイカーが増加している ・バスは減便	
景観・空間	・現庁舎からの眺めが良い ・市民会館等建物からの眺めが良い	[下通東側(中央街等)] ・平面駐車場が多く寂しい雰囲気がある ・風俗店が多く、駐車場を利用しても長居しようと思わない ・西岸寺公園は薄暗くて人が少ない	・熊本城が見える場所を大切にしたい。



チーム 4

大切にしたいこと

テーマ　まちの回遊と、目的地となる魅力的な場所を増やすアイデアを考える

歩くことが楽しく、居場所と目的地が連鎖する

提案1

安心・快適に移動できる仕組み

・銀座通りや籠町通りへ人の流れを生み出す（2核3モール⇒2核5モール）

・歩行者空間の快適性向上、地下通路やデッキなどによる動線強化。

提案2

居心地の良い空間

・オープンスペースや広場の整備（広場ごとにテーマや個性を持たせる）

・緑陰や植栽による快適な環境づくり

・アートや音楽を取り入れた空間演出

提案3

人々の目的地となる魅力的な居場所を増やす

・駐車場や公開空地の活用

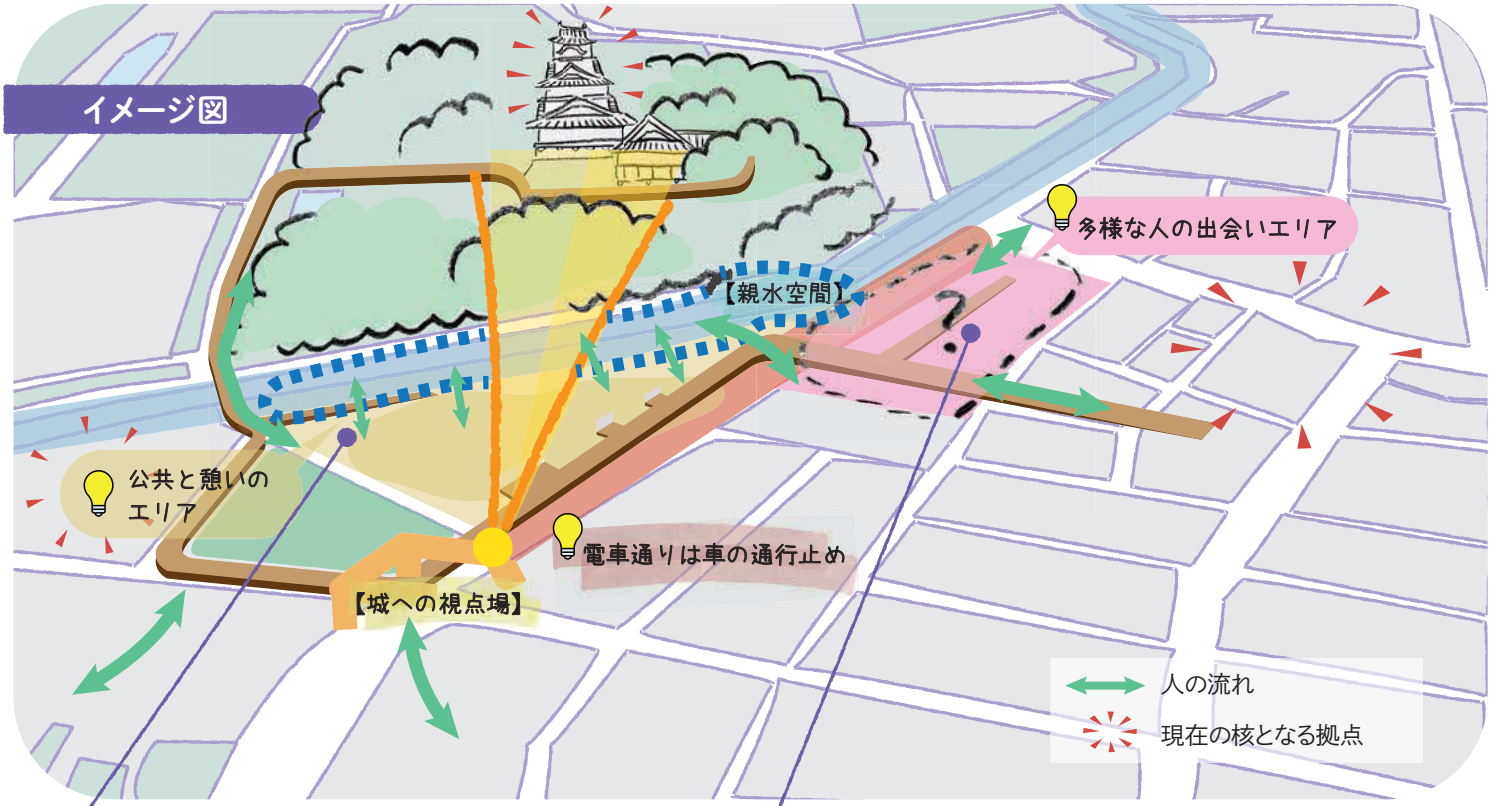
・熊本城を望める場所の創出

チーム
5

庁舎跡地利用をきっかけに、まち全体の価値を高めるアイデアを考える

庁舎跡地の活用を契機として、大規模な投資から小規模な投資まで幅広く呼び込み、まち全体の価値向上につながるアイデアについて議論しました。

※20~22項は、第4回～第6回の議論で出された主な意見を整理・編集して掲載しています。



公共と憩いの創出エリア（新区役所予定含む三角地）

熊本城の景観の中にすごす

それぞれの民間開発が、熊本城への眺望や交流の場を提供しながら、公共的な空間同士をつないでいくことが大事

民間開発による公共的空間の創出

オープンスペース
- ・観光、暮らす人、働く人にとっての城への眺望
- ・働く人にとっての日常的な居場所気軽に立ち寄れる憩いの場
- ・キッチンカーや夜に一杯できる気軽な場所

ランナーズステーション
- ・城周辺をランナーの聖地に

熊本城を眺めながらイベントや日常の憩いを楽しめる広場は、熊本ならではの魅力を体感できる場所となります。地域の人が集い、観光客との交流が生まれることで、にぎわいと回遊が広がり、熊本城への誇りや地域への愛着を育む空間として期待されます。

多様な人の出会いエリア（現庁舎跡地）

熊本愛の表現の場として

低層部に魅力的な景観やにぎわいの風景を創出しながら、事業性との両立を図ることが大事

城とまちをつなぐゲート～多様な人の目的地に

熊本らしいコンテンツ
- ・「熊本の地下水利用SPA」「熊本県産材木ホテル」など地域資源を活かす
- ・スポーツや文化で熊本の一体感をつくる
- ・熊本市民も楽しめる魅力的なコンテンツ（都心型IKEAなど）

商業+ホテルやオフィスの複合利用
- ・低層階に商業施設を配置し、上層階にはホテルやオフィス、サービス付き高齢者向け住宅などを導入

目的がなくても日常的な居場所に
- ・広場をつくってみんなが過ごせる空間に
- ・通り抜けの空間をつくってまちとつなぐ

城への眺望や豊かな暮らしを実現しながら、
公共性と事業性をどう両立するか。
悩みながらも熱い議論が交わされました！



TOPICS 1 城と視点場

熊本城を望む風景を、最上の価値とし、視点場を増やす

熊本城を常に感じられる風景を、このまちならではの価値として大切にしていこうという意見が多く出されました。熊本城との見る・見られるの関係性や視点場からの景観を大事にすべきではないかという意見も共有されました。その一方で、立体的なデッキネットワークを整備することで新たな視点場を創出できるのではないかという提案もあり、熊本城とまちの関係性をより豊かにする視点から議論が深められました。

TOPICS 2 つなぐ空間バリエーション

偶然の出会いを生む、多様な「つなぐ」のデザイン

城とまちをつなぎ、人の流れやにぎわいを広げるための「つなぐ工夫」が活発に議論されました。施設同士を結ぶデッキや、歩いて楽しい路地空間、川と建物をつなぐ広場など、公共・民間を問わず多様な接続のあり方が提案されました。単体の開発では生み出せない魅力を、さまざまな空間を有機的につなぐことで創出し、偶然の出会いや回遊が生まれる豊かなまちを目指すべきとの意見が共有されました。

未来のまちの姿

―実現したい暮らしの姿から、まちに必要な機能や空間を考えました

※掲載している写真は、第4回のビジョンゲームで参加者が選んだ写真の一部です。

① 多様な使い方ができるオープンスペースの創出

- 子育て世代や多世代が交流できる、身近な暮らしのあるまちなか
- 沿道の店舗とのつながりがある露天のお店
- 大きな木（木陰）、ベンチがあり、散歩中に自由に休憩できる

point
- ダイナミックな屋外空間
- 道路空間の活用
- 木陰の休憩スペース



アイデア・意見

■ 場と運営のセット
・1階の屋根付き広場+【行政×エリアマネジメント】による運営体制。
「場」と「運営」がセットになっていることが重要。
・電車通りの歩行者天国化（バス、市電のみ可）
or歩行者動線を2階に
→全体を広場、行政主体





② 熊本らしいコンテンツを楽しめる場に

- まちなか居住を活かしたコンパクトシティの価値向上
- アーケードを活かした日常的なにぎわい創出
- デザイン性の高い建築が彩る魅力的な夜景
- 中長期滞在を促す多様な楽しみの創出
- 白川沿いに熊本らしい夜のエンタメを創出
- 「熊本愛」を育むスポーツのホームタウン化

point
- マルシェ@アーケード
- 夜市
- スポーツ

アイデア・意見

■ 多世代が交流できる
・地元住民、観光客が出会える機能、民間、官民連携の場づくり
■ 地下水を生かしたSPAなど、熊本らしいコンテンツが必要
・通り抜け+交流拠点
⇒ 官民連携で！（エリマネ的に）
■ 地場産木材（CLTなど）を使った建築で熊本らしさを
■ 熊本らしさを





③ 熊本城とまちなかを結ぶ、にぎわいと回遊を生む結節拠点に（現庁舎跡地～三角地）

point
- 人の流れを生む仕掛け
- 多世代、地元住民、観光客の交流
- 熊本らしさ

三角地に価値を見いだし、城とまちをつなぐ視点が良い。



星野先生

- 「現庁舎跡地」は熊本城とまちなかの重要な場所をつなぐ結節点・ハブ
- 多世代や地元住民と観光客が交流できる
- 熊本らしさをアピールできるような出店や施設がある

アイデア・意見

■ 現庁舎跡地と三角地の機能
- まちなかの移動拠点
  パーソナルモビリティの充実、整備
  第2,3のチャリチャリ
- 中層、上層階ホテル+国内企業+?
- 低層：商業機能→回遊性高める
  中層：オフィス→事業性
  高層：ホテル→シンボル
  を民間主導（ただし行政支援も）
- 土地の売買で事業性をあげるのは難しい。
  安価な借地でないと成り立たない。
- 市が持ったまま、売上歩合方式はあり得ないだろうか。
- 機能+事業主体+体制しくみ等
- サービス付高齢者向け住宅
- 低層階にサクラマチ的遊歩道
  +エリマネ+（行政、エリマネ）
- 現庁舎跡地を「多様な人の出会いエリア」に
- 新区役所前にバスや電停を集約
- 長崎のようなアリーナとホテル複合施設





低層部は商業、上層部は視点場など、断面ゾーニングの検討までできるとおもしろい！



田中先生



④ ノードとして、城-現庁舎跡地-中央区役所-新庁舎をつなぐ仕掛け

point
- ノード
- 大屋根、立体通路
- 共有スペース

- 各施設をつなぐ大屋根や共有スペースなどの仕掛けがある
- 各施設間の屋上や低層階をつなぐ立体通路を整備する





アイデア・意見

■ まちへのゲート空間の整備
- [新庁舎～新中央区役所建設地周辺]現庁舎向かいの三角地をゲートにして、熊本城からまちに観光客を導いてはどうか
- 屋上をどう使う?
  → 開放+稼ぐ力（景観）
  「電車通り」

- 日常的に市民やビジネスパーソン、観光客が訪れる施設をまず1つ
- エリマネor指定管理事業者ががんばる
- デザインコードをつくり、一体的に。官民連携・新中央区役所建設地周辺の三角地を、「公共と憩いのエリア」に



⑤ 熊本城のある風景の中で、まちの魅力に出会う空間に

- 熊本城を眺めながら、市民や観光客が散策やランニングを楽しめる空間
- 気軽に通り抜けや休憩ができる路地や滞留空間の充実
- 視線の先に熊本城の風景と出会える眺望空間の創出
- デザイン性の高い建築による「電車通り」の夜間景観の向上
- 中長期滞在を促す夜の魅力やコンテンツの充実

point
- 熊本城との見る、見られるの関係
- まちなかの通り抜け空間
  →偶然の出会い
- 夜景×体験

通り抜けの路地に店が並び、人が集まる風景は魅力的だ。制度緩和は必要かもしれないが、その先に偶然の出会いが生まれる場づくりとして目指したい。



国吉先生

宝もの・問題もの・理想もの

※1~3回の意見を整理したものです

	現状		理想の方向性・必要機能等
	生かすべき資源	問題・改善点	
コンテンツ	○熊本らしさ ・九州のへそに位置 ・まちがコンパクトで福岡ほど大き過ぎず、小さ過ぎない ・“わさもん”という言葉があり、熊本の人は新しいものが好きでトレンドに敏感 ・綺麗な地下水が魅力で、川沿いから始まった商売がある ・食の素材が美味しい ○エリアの個性 ・並木坂：石畳、オークス通り：ブティック ・上通、上乃裏通り：ブティック、住商混在 ・通町筋：中規模商業施設 ・下通周辺：商業集積、蔦屋 ・シャワー通り周辺：石畳、スタバ・マック	・洋服が売れづらくなった	[上通周辺] ・マンション建設が進み、まちなか居住も一つのテーマ
緑・オープンスペース	・白川公園の緑 ・オークス通りの小自然		
回遊・滞在	・熊本市のまちなかは、西環状道路・北バイパス・東バイパス等に囲まれた中に位置し、周辺には熊本駅・上熊本駅・水前寺・南熊本駅等が存在 ・まちなかは熊本空港と海の中央に位置 ・まちなかへの入り口となる結節点が大事 （辛島町・行幸坂・現庁舎前・通町筋 ・藤崎宮前駅から並木通りへの交差点など） ・市電通り（熊本城～通町筋）は、熊本城とまちをつなぐ大事な軸 ・桜町バスターミナルを起点としつつ、行きと帰りのバス停等の起点は異なる	・[辛島町南側] 通町筋・桜町周辺地区と新町・古町地区の境界部分にあるため、地区の位置付けが分かり辛い	[まちなかへのアクセス] ・空港からのアクセスをいかにスムーズにするかが課題 [熊本城～まち] ・熊本城とまちをどうつなぎ、人の流れをつくるかが課題 [辛島町南側] ・周辺とどうつなぐかが課題
景観・空間	・まちなかから熊本城を望める視点場 （電車通りなど景観計画に位置付けのない視点場もある） [長塀通り] ・熊本城から観光客が歩く場所 [庁舎跡地] ・まちのシンボルとなる場所 [並木坂・シャワー通り] ・石畳の舗装	・新庁舎からペデストリアンデッキが連続してまちに人を流せるとよいが、東西に横切るとシンボルプロムナードからの眺望を妨げてしまう	[まちなかから城への眺望] ・まちから城への眺望を残すことが大事（例：船場橋や花畑町交差点からの眺望など） [新区役所] ・屋上は宮下公園のようにしてはどうか [庁舎跡地] ・居住・オフィス・観光など、ターゲットを最大化したい ・ホテル・居住・商業が考えられるが、事業性を持たせるにはどうすればよいか ・例えばまちなかのタネ地としての受け皿になれば、連鎖的な動きにつながる。





チーム 5

大切にしたいこと

テーマ　庁舎跡地利用をきっかけに、まち全体の価値を高めるアイデアを考える

熊本城を核として、現庁舎跡地や三角地エリアなどをつなぎながら、中心市街地全体の価値向上を図るためのアイデア

提案1
現庁舎跡地の在り方
- 熊本城とまちなかをつなぐゲート機能
- 多様な人々が集い交流する場
- 商業、ホテル、オフィス等の複合的な機能導入
- 地下水や県産木材など熊本らしい資源の活用

提案2
新区役所街区（三角地帯）の在り方
- 民間による広場やオープンスペースの創出（人が滞在できる公共空間）
- 熊本城周辺との連携周辺エリアとの機能分担
- 電車通りトランジットモール化、デッキや通り抜けの整備（ドラスティックに）

提案3
お城と視点場
- 熊本城を望める展望空間（数多く設ける）
- 阿蘇山系への眺望
- 屋上空間やデッキなど、景観を楽しめる公共空間の整備

提案4
熊本城を中心とした回遊ループの形成
- 熊本城を中心に、現庁舎跡地、三角地エリア、上通側などをつなぐ回遊ループ形成。
- それぞれのエリアに役割や個性を持たせながら、面的な魅力向上